

# 明日へともにも歩む

## 半田の医療法人

### 給与天引き 遺児に寄付

#### 職員7割参加し継続

東日本大震災の被災者を支援するため、愛知県半田市の医療法人「メディライフ」は、希望する職員の給与を天引きして寄付を集めている。気軽に参加でき継続しやすい試みで、全職員の七割が寄付をしている。④⑤面で中部・東北のボランティア特集

在宅支援の診療所などの展開するメディライフは、震災直後に五万本の歯ブラシを被災地に寄贈。さらに長期的な支援を模索していた時、米ニューヨーク市が日本の被災者支援

のため、「天引き寄付」を始めたことを知った。同社はこれを参考に二〇一一年五月から天引き寄付を開始。昨年十二月までに七百三十九万円を集め、震災で保護者を失った子どもに奨学金を給付する宮城県の「みやぎ子ども育英募金」に寄付した。現在は職員百八十四人が参加する。理事の阿部麻子さん

(金)は「少ない手間と負担で参加できる」。子どものリハビリ担当のパート横山栄里子さん(四〇)は月三千元を寄付しており、「無理のない金額を自動で寄付できるので続けやすい」と利点を説明する。企業が従業員から寄付金を集めて被災地へ送る例は、デンソー(愛知県刈谷市)が、社員の寄付金で運用する基金から宮城県の育英募金などへ寄付している。また、三井住友銀行(東京)も一年六月から給与天引きの募金をしている。

阿部麻子さん